

(別紙4)

事業所名 グループホームわたぼうし

目標達成計画

作成日: 平成26年10月10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容 目標達成に要する期間	
1	33	入所者全員の利用期間も長くなり、ほぼ全員に認知症状や身体面での重度化がみられる中、くつろぎ空間が必要である。また、看取りを含めた終末期の在り方についての検討が必要。	終末期の家族の意向に沿えるよう、情報を共有しながら方向性を検討していく。	①状態変化に応じ面談等で、状態や情報の共有を図り、家族の意向を軸にした終末期を検討する。 ②新入居者には、入所時に意向を確認する。 ③看取り契約時には、具体的な内容で終末期の意向を再確認する。 ④入居者の身体状態に合わせた環境づくりを行う。	12ヶ月
2	26	ほぼ全員のケアプランが、支援重視の介護計画になっている。本人や家族の意向の反映が少ない計画になっている。アクティビティへの働きかけへの計画を取り入れる必要がある。	本人や家族にとっての楽しみや、出来そうなことを見つけて介護計画を立案する。	①事業所内での生活で希望することの家族の意向を再確認する。 ②利用者と家族の希望に向けてプランを作成する。 ③支援プランは、サービスを統一する上でも重要なために継続する。	12ヶ月
3	35	事業所独自での、災害(地震、災害、大雪など)時の備蓄が充分ではない。	災害時に備え、必要物品を事業所内で管理する。	①必要物品の割り出しを行い、チェック表を作成する。物品の収納場所を確保する。 ②利用者の生活空間に配慮し、安全でわかり易い物品の保管方法を検討する。	24ヶ月
4					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。